

ナシ黒星病に対する

ジチアノン水和剤とマシン油乳剤の混用散布の効果（休眠期）

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

県オリジナル品種の‘新甘泉’はナシ黒星病に罹病し易い。現地ほ場では慣行防除を実施した場合でも本病が多発した事例があり、防除対策の強化が望まれている。本病の対策には休眠期の薬剤散布により春季の菌密度を低減する手法があるが、その検討事例は少ない。そこで、これまで未検討である「ジチアノン水和剤（商品名：デランフロアブル）」と「マシン油乳剤（商品名：ハーベストオイル）」の混用散布について、ナシ黒星病の発生量に及ぼす影響を調査した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 休眠期（3月中旬頃）のジチアノン水和剤とマシン油乳剤の混用散布は、5月の葉及び果実における黒星病の発生量を軽減する。
- 2) 薬害は認められない。

2 試験成果の概要

- (1) 2018～2020年に、品種‘幸水’、‘豊水’及び‘おさゴールド’を供試して試験を実施した。
- (2) 休眠期（3月中旬頃）にジチアノン水和剤1,000倍とマシン油乳剤97%乳剤100倍の混用液（以下、試験薬剤とする）を1回散布し、対照薬剤の石灰硫黄合剤7倍液と効果を比較した。
- (3) 5月の葉及び果実の調査において、試験薬剤の発病葉率は9.4%、発病果率は7.5%であり、無処理と比べて低かった（図1）。
- (4) 試験薬剤は対照薬剤に比べて同等～やや優る防除効果であった（図2）。
- (5) 試験期間を通して、試験薬剤の混用散布による薬害は認められなかった。

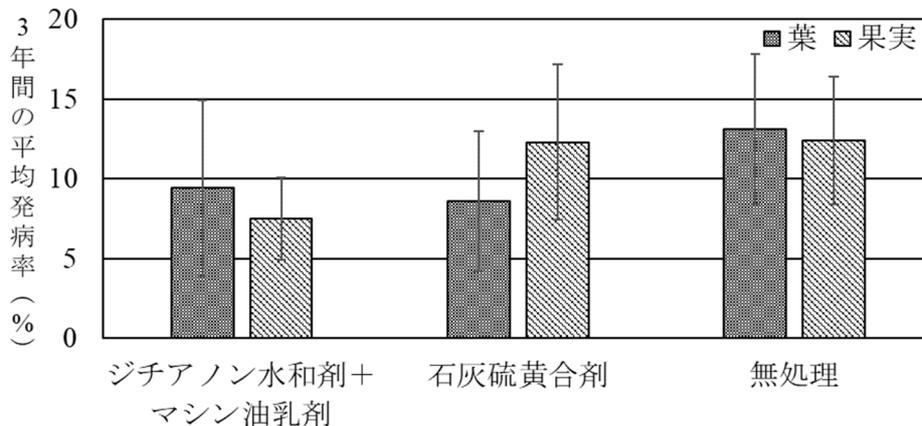


図1 5月の調査におけるナシ黒星病の発病率

(エラーバーは標準誤差を表す, n = 3)

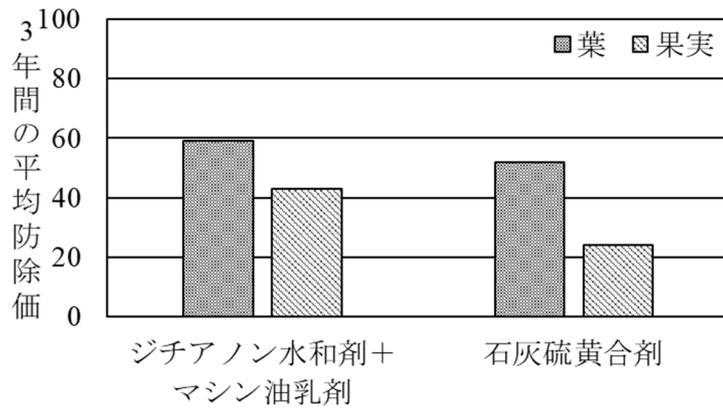


図2 5月の調査における防除価

$$\begin{aligned} \text{防除価 (葉)} &= 100 - (\text{処理区の発病度} / \text{無処理区の発病度}) \times 100、 \\ \text{防除価 (果実)} &= 100 - (\text{処理区の発病果率} / \text{無処理区の発病果率}) \times 100 \end{aligned}$$

3 利用上の留意点

- (1) 花そう基部病斑の発生量を軽減する効果は無い。
- (2) 生育期防除と比べて効果が不安定であるが、多発園における防除対策として活用できる。

4 試験担当者

環境研究室 研 究 員 山田 高之
 環境研究室 室 長 中田 健※
 ※現 農業振興監経営支援課農業普及推進室